

白山ふるさと文学賞

第十回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生5・6年の部 優秀賞

鉛筆と消しゴム

松任小学校五年

水口 みずぐち

美空 みく

自分のお母さんは、文房具という「鉛筆」のような人です。

鉛筆は文房具の中でも一番使うもので、リーダーシップがあると思います。お母さんも仕事から帰ってきてつらいのに、家事をたくさんしてくれます。笑顔で話も聞いてくれてテキパキ指示も出してくれます。

自分は家では消しゴムです。消しゴムは必要ではないことを鉛筆に書かれると出番がきます。それと同じで自分が好きなアニメを見ているのに「手伝って」と言われることがあります。家事は大変だと思うけど、自分にはそれが気に食いません。でも、鉛筆は必要なことをたくさん書いて、人間を支えています。お母さんも自分が「分らないから教えて」というとすぐに教えてくれて、自分の支えになってくれます。追加でたくさんのもも教えてくれます。

鉛筆は小さくなると、小さな鉛筆削りでも削れなくて、削るとすると動いてくれません。お母さんも私が悪いことをしてしまつて怒ると、学校で分らなかったことも教えてくれず、話しかけても無視します。でも、鉛筆はまだ使つてない長い鉛筆と、短い鉛筆をボンドでくつつけると、また削れるようになります。お母さんも私が反省して気をつけるようにすることが分かると、いつもの笑顔にもどつて、分からないことを教えてくれます。

鉛筆は消しゴムとセットでいつも一緒にいます。お母さんもそうです。珠洲で地震が起きた時もすぐに寄つてきて「大丈夫！」と聞いてくれました。ピアノの発表会でも自分のために連弾をしてくれたり、教えてくれたりしました。私が「カラオケに行きたい」と言つても連れて行ってくれました。このようにお母さんはいつも私のそばにいてくれます。

消しゴムは時々、消してはいけなところを消して、鉛筆に怒られる時があります。でもすぐに、書き直してくれます。自分が転んでしまつて目の近くをケガしてしまつた時は、「どうしてこうなったの?」とこわい顔で聞かれました。でも、自分が答えるとその後は優しく接してくれました。すぐくうれしかったです。

鉛筆はかわいい部分もあります。なぜなら、書きたい字とまちがえて違う字を書いてしまうことがあるからです。お母さんは雷が苦手です。だから外が光ると「びくっ」として、雷が鳴ると「こわい!」とちぢまつてしまいます。寝ていても、雷が鳴ると起きてびっくりします。そこがかわいいと感じます。

鉛筆は削らなくていいと思うことがあります。お母さんも大ざっぱなところがあります。例えば、野菜に虫がついていても洗つて「大丈夫、大丈夫。」と言つたり、買い物に行つても「これある?」と聞くと「ある、ある。」と言つたりするからです。こういう時に限つてお母さんは買忘れの時があります。そんな姿を見ると面白くて笑つてしまいます。

お母さんには名言があります。それは「何事にも練習が大事。」です。この時、こんなことも言つてくれました。「分からない時は、質問すればいい。」と。鉛筆でも消しゴムがどの字を消せばいいのか分からない時に「書きまちがえたこの字を消して。」と教えてくれ、教えてくれればうまくなります。だから鉛筆と消しゴムは仲良しです。

でも、鉛筆は消しゴムに負担をかけたくないから、字を間違えないようにすることがあります。お母さんもそうです。お母さんは時々めいわくをかけないように、口には出しますが、一人で解決しようとする時があります。頭がいたい時も、口には出しますが、一人でいたがつています。「先生と生徒のようにたよればいいのに。」と思う時があります。

鉛筆はつかれてコロコロして遊ぶことがあります。お母さんも仕事でつかれて、夜ご飯をテイクアウトすることがあります。いつもがんばっているから、こんな日があつてもいいなと思います。

鉛筆の中には、「これだけ使つて」と他の鉛筆に楽になつてほしい優しい心を持った鉛筆がいます。これはお母さんも同じです。お母さんも自分が「ねむい。」と言うと、「お手伝いはいいから寝ていいよ。」と言ってくれます。そのおかげで、学校の登校中も授業中も集中して楽しくいることができます。

自分はお母さんとの思い出をふり返って、リーダーシップがあり、たよれる存在なので「鉛筆」に例えてみました。お母さんはつかれていても、自分に優しかったり、きびしくしたりしてくれます。食事のしたくや掃除も一生懸命してくれます。

私のお母さんは自慢のお母さんです。お母さんは自分のたよれる存在であり、あこがれでもあります。

「いつも感謝しています。ありがとうございます。」

